

平成14年度 学長特別研究費 研究成果報告書

1. 研究の概要

名称 メディアアートフェスティバル2002

研究者

代表者 松原季男(技術造形学科長)

メンバー 大山千賀子・李恩沃・佐藤聖徳

経理担当/事務局 長嶋洋一

概要

平成14年8月17日より8月26日まで本学を会場として、「メディアアートフェスティバル2002」の企画・実施運営を行った。以下がその概要である。

Joshua Kit Clayton 公開レクチャー
コンピュータ音楽・ライブコンサート
インスタレーション・ギャラリー
ムービー/ミュージック・シアター
特別企画「最新のヨーロッパ映像作品上映会」
SUAC CG/Photo ギャラリー
「瞑想空間」特別企画
(併催) DSPサマースクール 2002

2. 研究の目的と背景

2001年8月1日-8月7日に本学を会場として開催した「新世紀メディアアートフェスティバル」(MAF)の成功と好評を受け、時期・内容・企画に検討を加えつつ、新たに「メディアアートフェスティバル2002」の企画および実施運営を行った。合わせて関連した学内におけるメディアアート関係の理解・環境の充実を目指した。

メディアアート関係のイベントは、浜松あるいは東海地域ではほとんど開催されておらず、東京や関西でも経済状況低迷を受け、支援するメセナ活動が低下している。そこでMAF2002の開催という機会をとらえて、県民市民に開かれた本学で、浜松駅前という絶好の立地を生かして、(1)世界的に活躍する作家を招聘してのコンピュータ音楽コンサート、(2)インスタレーション等のメディアアートの公開ギャラリー展示、(3)この分野で創作を進める全国の作家・学生に呼び掛けてのムービー上映/音楽シアター、(4)IAMAS(国際芸術情報科学アカデミー)と共同で「DSPサマースクール(DSPSS)」というワークショップの共同開催、(5)DSPSSの講師として来日した作家Kit Clayton氏の公開レクチャー、(6)DSPSSの講師として来日した作曲家・後藤英氏の協力による「最新のヨーロッパ映像作品上映会」、(7)本学のユニークな空間「瞑想空間」を活用したパフォーマンス、(8)SUAC学生のCG/Photo作品の展示ギャラリー、等のイベントを統合した「メディアアートフェスティバル」を企画・実施運営することを目的とした。

3. 実施内容

3.1 プロジェクトとスケジュール

プロジェクトマネジメントは2002年冒頭から開始し、まずコンサートに招聘する作曲家への打診、作品の展示発表を公募するWebページの公開と案内の電子メールに続いて、中核となるコアスタッフをSUAC学内から公募した。2002年の講義がスタートすると、「現代芸術論」「サウンドデザイン」を受講する学生にも講義の一環として広くスタッフ参加を呼び掛け、最終的にはSUAC学生スタッフは30名を越える規模となった。音響スタッフは技術造形学科などから有志を組織し、外注業者に頼むことなく学内だけで本番を乗り切る特訓講座も行った。最終的なイベントとしての概要は以下である。

日程

Joshua Kit Clayton 公開レクチャー 8/25(日) 13:00-14:30
コンピュータ音楽・ライブコンサート 8/23(金)・8/25(日)
インスタレーション・ギャラリー 8/17(土) - 8/26(月) 10:30-16:00
ムービー/デジタルミュージック・シアター 8/18(日)・8/22(木)・8/25(日)
特別シアター「最新のヨーロッパ映像作品上映会」 8/23(金)・8/24(土)
SUAC CG/Photo ギャラリー 8/17(土) - 8/26(月) 10:30-16:00
「瞑想空間」特別企画 8/22(木) - 8/25(日)
DSPサマースクール 2002 8/21(水) - 24(土)

主催

静岡文化芸術大学
同 文化芸術研究センター

後援

静岡県
浜松市
静岡県教育委員会
浜松市教育委員会
情報処理学会 音楽情報科学研究会
日本コンピュータ音楽協会(JACOM)
芸術科学会

3.2 Joshua Kit Clayton 公開レクチャー

Max/MSPの拡張ライブラリ"Jitter"のプログラマでありアーティストのKit Clayton氏を講師として、公開レクチャーを開催した。CDディスコグラフィーで紹介された同氏の紹介は以下である。

「サンフランシスコ在住のキット・クレイトン青年が放つミニマル・サウンドは、70年代後期にキング・タビーヤリー・ペリーらが築き上げたダブにテクノの感覚を大量に注入し、現代に甦らせた最先端電子音響音楽（彫刻？）である。ディレイを過剰なまでに効かせた、閃光が鋭く突き抜けるような金属質のサウンドは、世界各地のアンダーグラウンド・シーンに激震を与え、テクノのみならず、ハウス、ノイズといったジャンルにまで波紋を及ぼせた。ラップトップ・コンピュータで創造される、精神の最深部にまで引きずり込まれるかのような激ドープなハイテク・ダブは危険極まりない。嗚呼、震えが止まらない……。」

会場には学外を含めて多数のファンや専門家が来場し、質疑応答を含めて盛り上がった。現在進行形の若いアーティストと触れて、SUAC学生にもおおいに刺激になったようである。以下の写真はその模様の一部である。



3.3 コンピュータ音楽・ライブコンサート

これはこのフェスティバルの「目玉」として、内外で活躍する11人の作曲家が2夜連続でSUAC講堂ホールにて開催した、「ライブ」のComputer Musicコンサートである。単にコンピュータ音楽というだけでなく、伝統楽器の演奏家による多様な音楽の拡がり、さらにメディアアートとしての多様性を十分に印象付ける、浜松では過去に前例のない意義深い、音楽的にも興味深いコンサートとなった。なお、各作曲家の了承の下、この公演の記録はSUACでの「現代芸術論」等の講義教材となっている。以下、コンサートプログラム順に演奏風景の写真を紹介する。作品解説については添付資料のMAF2002プログラムを参照されたい。

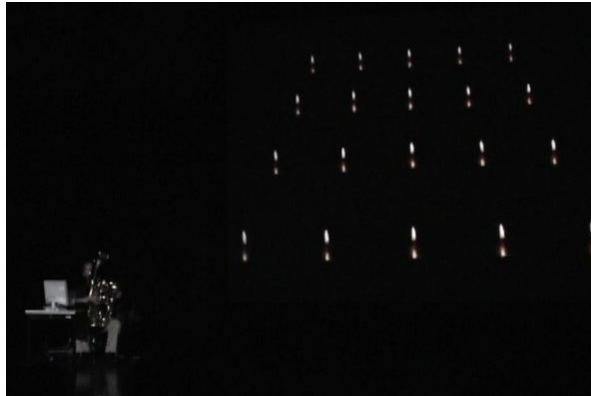
o 由雄 正恒

"continuo" 低音楽器とコンピュータのための

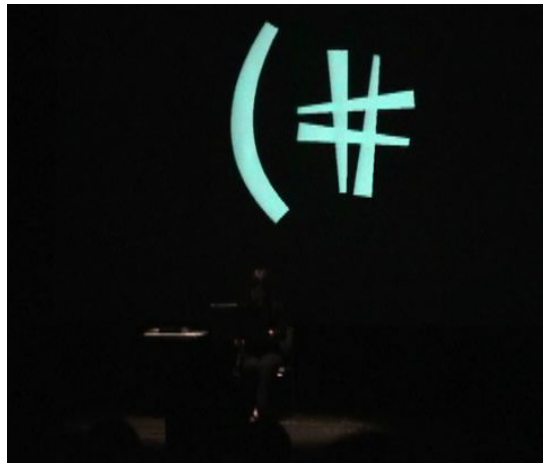
cello : 中川 梨絵



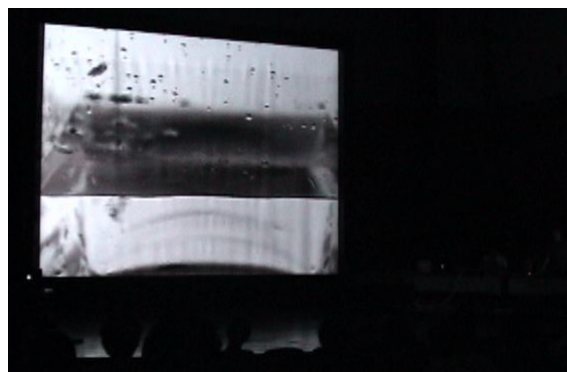
- o 中村 文隆
Echostique
Tuba : 中村 文隆



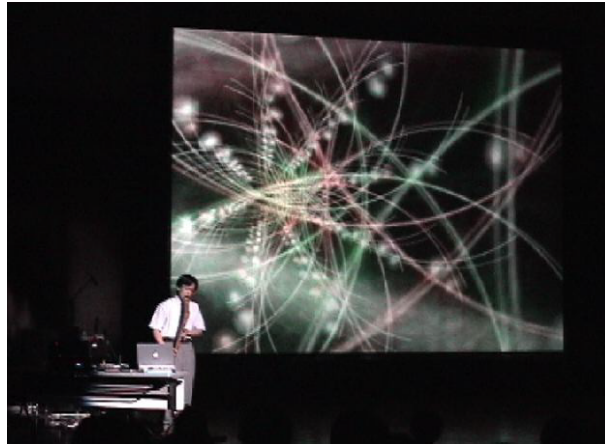
- o 岡本 久
MIDISAXと同期映像のための "Variation"
MIDISAX : 江唐 珠美



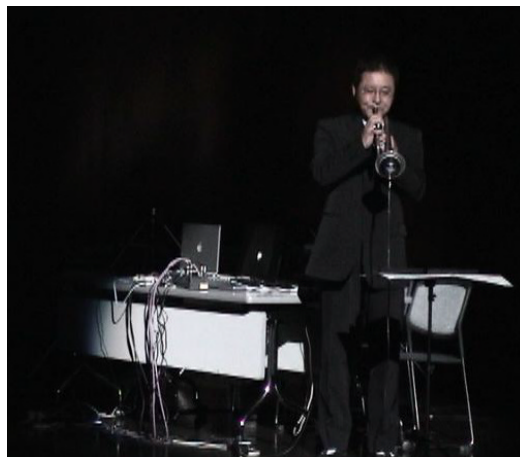
- o 平野 砂峰旅
SightSound -voices-
コンピュータ、Live Electronics : 平野 砂峰旅
ボイス : 菊池 悠子



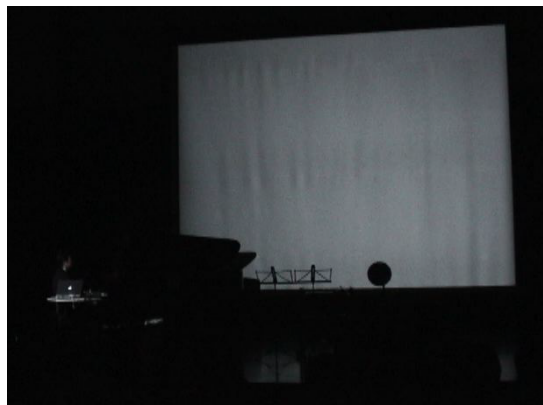
- 長嶋 洋一
Berlin Power
Bass Recorder : 長嶋 洋一



- 佐近田 展康
機械ミッション
Trumpet : 曾我部 清典



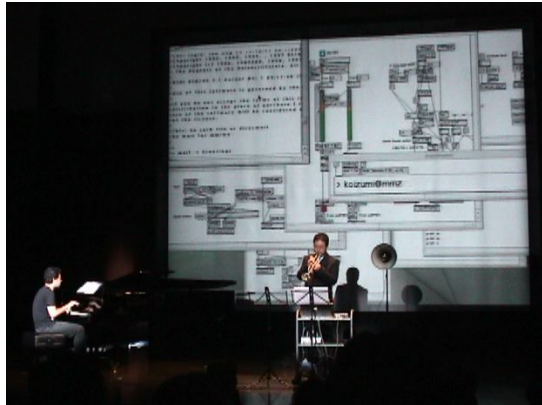
- 赤松 正行
Grand Pianissimo
演奏 : 赤松 正行



o 三輪 眞弘

SendMail v3 for Trumpet and Piano

Trumpet : 曾我部 清典



o 東野 珠実

"I/O" for Sho and Live Computer 2002

笙 : 東野 珠実



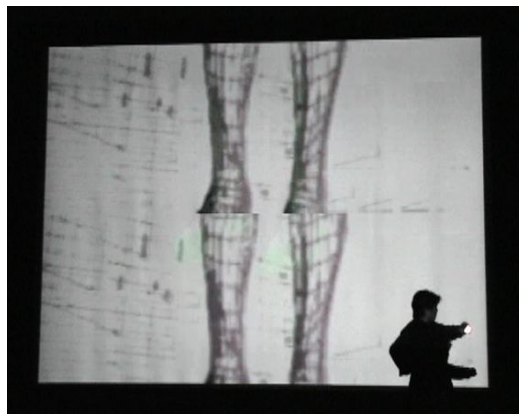
o 後藤 英

CsO

パフォーマンス : 後藤 英

VJ : 710.beppo

グラフィック・オペレータ : 小島 一郎



- o Joshua Kit Clayton
Interruption
Computer : Joshua Kit Clayton
Computer : Susan Costabile



3.4 インスタレーション・ギャラリー

ライブComputer Musicコンサートと並んでメディアアートフェスティバルの目玉となったのが、SUAC西側ギャラリーを利用して1週間の連続展示を行った「インスタレーション・ギャラリー」である。全国の作家や大学等に作品参加を公募し、最終的には学外6作家(チーム)、さらにSUACからも6チームによる作品が参加した。以下、展示風景の写真を紹介する。作品解説については添付資料のMAF2002プログラムを参照されたい。

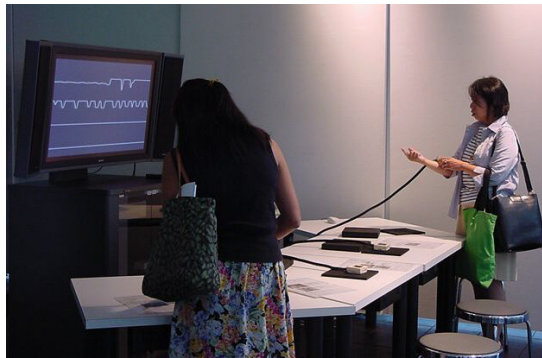
- o 勝田哲司 Music Plant



- o 松村誠一郎 On Yu Gu



o 照岡正樹 + 藤原義久 + 前川聡 + 片岡勲人 UGO-SCAN



o 津坂真有 E=mc2



o 中居伊織 streetscape



o 「Gun★Min」 (川崎真澄 + 渋谷美樹) Kirameki



o 加藤奏子 + 池谷綾香 + 高木法子 + 芝谷真名美 Kana Koubou



o 「わかば」 (小島瞳 + 坂田久美子 + 平岡輝子) Chess de Pon !



o 「メ四ンパン」 (鈴木飛鳥 + 高木慶子 + 竹森由香 + 田森聖乃) sand clock



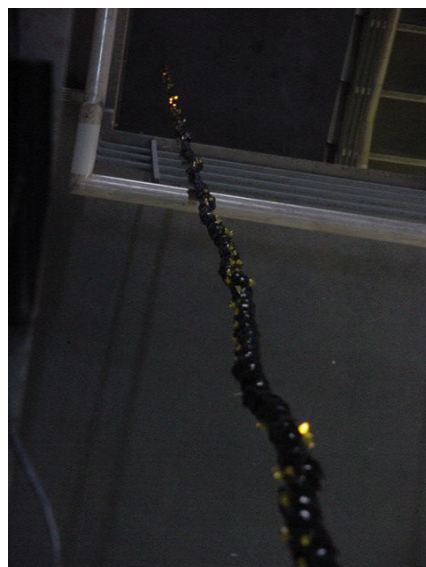
o 東堂のぞみ + 丸山幸恵 Ketsu Puttin'



o 赤松正行 Time Machine



o 「段虎」(大山真澄 + 加藤美咲 + 林文恵 + 北嶋めぐみ) Dantora



3.5 ムービー/デジタルミュージック・シアター

テープ音楽作品、映像付きテープ作品、映像作品などの作品発表も公募し、以下の12作品を上
演・公演した。

- 朴 香葉
"Where am I?"-谷川俊太郎の詩による3つの楽章
- 三瀬 和也
my owndemons worthy
- 常盤 拓司
"Four tears"- First movement
- 常盤 拓司
"Four tears"- Third movement(for my friend)
- Lee Hyun Jung
SAMOGOK(思慕曲)
- 服部 江里
「せんたっき」
- 杉本 真理
∞
- 村岡 睦稔 / 竹内 徹 / 太田 友岳
「SUNCTUS ~ 聖なるかな ~」
- 内田 涼子
「朗詠」
- 内田 涼子
「私は箱の中にいた」
- 望月 沙矢佳
「いたい」
- 長嶋 洋一
"JizoGazoDazo"

3.6 SUAC・CGギャラリー

SUAC学生のCG作品を展示する「SUAC CGギャラリー」も3日間にわたって行い、以下の10人・
18作品を展示公開した。

- 山内 麻里
「ランプ」「空」「I love life 1」「love life 2」「街」
- 川崎 真澄
「リズム」
- 渋谷 美樹
「まんぼ」「青」
- 林 文恵
「-陽- Death and Rebirth」「-陰- Death and Rebirth」「life」
- 上野 佳代
「深海」「夏休み」
- 須原 ゆかり
「虹の輪」
- 西尾 沙織
「透きとおった夏」
- 安藤 桜蘭
「無題」

- 鈴木 梨紗
「無題」
- 三田 希
「無題」

3.7 特別シアター「最新のヨーロッパ映像作品上映会」

DSPSSの講師として来日した作曲家・後藤英氏(パリ在住、フランス国立機関IRCAMで活躍中)の協力により、「最新のヨーロッパ映像作品上映会」を行った。公募のムービーシアターと合わせて、現代映像に興味のある多数の来場者に好評を得た。以下はそのプログラムである。

De la vie des enfants au XXIeme siecle
2000
Realisation: PAPISTHIONE
Duree: 57' 02"

Lydie jean dit Pannel
Papiers peints chambre et couloir
2001 2002, 35'

Lydie jean dit Pannel
DO NOT DISTURB
2002
2'30

Captive (2nd mouvement)
Realisation: Nicole et Norbert CORSINO
1999, fiction choregraphique
Duree: 12' 17"

Adiu Munde
Sandra kogut
1998, fiction documentaire
27'

Gramsciategui ou les poesimistes (deuxieme chant)
Realisation: Gianni TOTI
1999, VideoPoemOpera
Duree: 55'

3.8 SUAC「瞑想空間」特別企画

文化芸術研究センター内ホール、通称「瞑想空間」を会場として、以下の特別企画を行った。なお、本件は平成14年度デザイン学部長特別研究テーマでもあるので、全体の詳細についてはそちらの報告書で報告する。

- 8月22日(木) 11:00-16:00
月組 (酒井香 + 有ヶ谷千佳子 + 藤田義雄 + 長嶋洋一)

- 8月22日(木) 18:00-19:30
パフォーマンス(長嶋洋一プロデュース、Performer : 川村武子)
- 8月23日(金) 11:00-14:00 / 16:00-18:00
松組 (藤田義雄 + 大山真澄 + 加藤美咲)
- 8月24日(土) 11:00-16:00 / 17:00-19:00
竹組 (成田佳寿美 + 東堂のぞみ + 平岡輝子 + 斉藤真理子)
- 8月25日(日) 10:00-14:00
梅組 (池谷綾香 + 加藤奏子)

4. 得られた成果と評価

MAF2001に続いて開催されたMAF2002により得られた成果としては、多数の来場者を迎えて、学会・文化的な新時代の情報発信拠点としての存在を広くアピールできただけでなく、関連する講義とリンクさせ、個々の作品ごとに学生スタッフが密接に貼り付いて運営することで、多くの先端のメディアアート作品の生きた実例を体験し、またフェスティバル企画・イベントプロデュース等を実際に学生が担当することの体験的・教育的な意義が大きい。また、翌年2003年にも、新たな企画として「メディアアートフェスティバル2003」を開催し、成功させることにつながったことも重要である。

今後、さらに機会を得てこのテーマでの研究を進めていきたいと考えている。

5. 添付資料の解説

資料1ページ メディアアートフェスティバル2002の新聞報道記事(中日新聞)

資料2ページ メディアアートフェスティバル2002のチラシ

添付別冊資料1 メディアアートフェスティバル2002・プログラム

添付別冊資料2 情報処理学会音楽情報科学研究会での報告別刷

以上